

## 卒業式 式辞

待ち侘びた花の便りも届く今日の佳き日、ここに令和元年度羽衣国際大学卒業証書・学位授与式を挙げていきますことは、本学にとって大きな喜びであります。

誠に遺憾ながら、本年は新型コロナウイルス感染を防止する観点から、ご来賓と保護者の皆様をこの会場にお招きすることができませんでした。関係各位に多大なご迷惑をおかけ致しました事を、改めてお詫び申し上げます。

さて本日現代社会学部 134 名、人間生活学部 97 名の卒業生に「学士」の学位を授与致しました。皆さんはこれより社会に巣立つこととなります。皆さんは社会の中で活躍する、文字通り「社会人」となります。教職員やご父兄に守れてきた学窓を離れ、老若男女多くの人々とともに切磋琢磨しなければならない経済社会の渦中へと飛び込んで行くこととなります。

現在のウイルス禍にあって世界全体が混乱と動揺をみせています。我が国においても貿易の断絶、サプライチェーンの分断、インバウンドの制限、医療福祉施設の閉鎖、学校の休校、スポーツや芸能を含む各種イベントの中止等によって様々な社会的、経済的影響が表れてきています。わが国の春の風物詩ともいえる甲子園球場での選抜高校野球大会も中止となりました。本学においても、海外に研修に行くことができなくなった学生や予定を変更し研修を切り上げて急遽帰国した学生もいます。

このようなことを目の当たりにして、私たちは日頃は当たり前だと思っていることが、いかに健康や安全、友好や協調を前提にして成り立っているかということの思い知らされます。「人の健康の大切さは失って初めてわかる」と言われますが、社会全体においても、日頃あまり意識することのない公衆衛生や医療活動の大切さを痛感させられることとなりました。

そんな中で、現在もマスクの品不足が続いています。現在国内で増産されていますが、いまだに十分な量が市場に出回っていない状況が続いています。中には不当な価格での転売が横行し、マスクの不当な転売が禁止され違反者には罰則が科せられる事となりました。

さて、ここで皆さんに考えて欲しいと思います。次の A と B の 2 つの選択肢のうち、皆さんはどちらを選ぶでしょうか。

- A) 余分なマスクを転売し利益を得る
- B) 余分なマスクを必要なところに寄付する

人それぞれ考え方があっていいと思います。「転売して利益を得るなどけしからん」というつもりもありませんし、無条件に「寄付は素晴らしい」というつもりもありません。ただ経済を学んだ人にとっては、この問題はひとつマスクの問題に限られるものではなく、経済全般に通じる問題であることも理解できるでしょう。実はこの問題は経済の根底にある 2 つの課題を端的に表している、と言えるのです。

「経済学の始祖」、「経済学の父」と呼ばれるアダム・スミスは 1774 年に著した名著「国富論」の中で、自由な取引が価格で調整される市場メカニズムを「(神の) 見えざる手」という言葉を用いて表現しました。そこでは現在の市場経済や自由貿易につながる考え方が示されており、その点だけみると経済では自由な生産や需給の均衡が重視されることとなります。そうすれば A の選択肢が正解ということになるかもしれません。なぜならマスクが転売されるということは売る人と買う人、つまり需要と供給が一致し、その意味で経済原則

に適うともいえるからです。

しかしここで皆さんに知っておいて欲しい事があります。アダム・スミスには1759年に著したもう一つの著書「道徳感情論」という書物があります。これは経済学というよりも倫理学あるいは道徳論といった内容のものですが、ここでアダム・スミスは人間には利己心だけではなく、他の人との「共感 (Sympathy)」という感情がありその「共感」によって社会の秩序が保たれる、ということも述べているのです。先の「見えざる手」という表現も、余った農作物は人々に分配される、という面でも用いられているのです。

アダム・スミスが2つの書物の中で示唆した事は、現代の経済の表現を用いれば、「効率的な資源配分」と「公正な配分」という2つの課題を示しているとも言えます。現在の経済を考える2つの視点が既にアダム・スミスの思想全体の中で示唆されており、その意味でまさに「経済学の始祖」と言えるわけです。決して偏狭な利己心に基づく価格メカニズムだけがアダム・スミスの思想として抽出されるべきものではなく、経済学が追求する課題でもないのです。

ここで皆さんに伝えたいことは、先の問いについていえば、AもBもどちらも絶対的な真理であり正解とは成り得ない、という事です。ある場面ではAが正しくある場面ではBが正しいでしょう。このように2つの相反する考え方に直面した時に、どちらが絶対に正しい、あるいは自分が正しいと思う方が良く決まっている、と自分の考えに固執することなく、一歩問題から離れてこれらの2つの異なった考え方が含むより本質的な問題を探るようにして欲しい、ということです。

これから皆さんが飛び込んで行く社会には自分とは異なる様々な意見があります。えてして人は「自分の意見が正しく、相手が間違っている」、という前提で議論を進めます。しかしそうした考え方を全ての人が持つとすれば、意見が衝突するだけで決して合理的な解決にはつながりません。「上司と意見が異なる」、「同僚の考えに納得いかない」、ということはいくらもよく起こります。そんな時には相手が言っていることに一度耳を傾け、なぜそのような主張をするのか、その背後にあるものは何なのかを、一歩引いて考えるようにしてください。私は、皆がこのように考えることが、アダム・スミスの「共感」という考え方につながっていると思います。またその意味でこの「共感」ということは経済の発展の鍵となり、身近な家庭や組織の問題のみならず環境問題に代表される社会経済問題の解決に向けて根底にあるべき考え方だと思っています。

いずれにせよ、皆さんがこれから飛び立つ社会には大きな変化が待ち受けています。誰もが予想しなかったような激しい変化に見舞われることでしょう。今回の新型コロナウイルスの蔓延もそうしたことの一つです。このように未知の世界に飛び出すことは、怖いものに違いありません。意見の違いに戸惑うこともあるでしょう。

しかし、自分で学び、自分で考え、自分で行動する姿勢が身につくおれば、時代がどんなに変わっても恐れる必要はありません。むしろ時代の変化が大きなチャンスにできることに気づくでしょう。

本学で学んだ知識や技能を基礎として、激動に飛び立つ皆さんがまず健康でありそのうえでのびのびと活躍することを期待して、卒業式の式辞といたします。